

新人医師臨床研修「マッチング」

本県過去最多の118人

前年度比4割増 誘致活動が結実

厚生労働省は20日、来春の新人医師の初期臨床研修先を決める本年度の「マッチング」の結果を公表、本県では過去最多の118人を確保できたことが分かった。

県と研修病院でつくる県医師臨床研修協議会「新・鳴滝塾」の事務局を務める長崎大学病院医療教育開発センターの濱田久之教授は「増加率の高さは低迷した前年の反動という要素が大

きいが、人数は最多。県内一丸となって研修医勧誘に取り組んできた成果が上がっている」としている。

マッチングは、医師を目指す学生と受け入れ病院の希望の組み合わせで研修先を決める仕組み。2004年度から始まった新医師臨床研修制度に伴い導入された。本年度は前年度に比べ▽県全体の募集定員が7人多い▽長崎大医学部の来春卒業予定者が124人と20人多い▽ことに加え、将来の専門医資格の取得まで含めた教育プログラムを県全体で整えたことが評価されたとみられる。

増加が顕著だったのは研修拠点となっている長崎大学病院と国立病院機構長崎医療センター、佐世保市総合医療センターの3カ所で、それぞれ14人、8人、5人増えた。佐世保市総合医療センターは今年4月の地方独立行政法人化に向け、研修医の教育態勢や待遇面などを見直してきたことで注目されたとみられる。

新医師臨床研修制度を巡っては、一般症例の多い大都市の公立病院や民間病院に人気集中。かつて県内では100人前後の研修医を集めたが、08年の採用者は68人にまで減少。診療科を閉鎖する医療機関が相次ぐなどの影響が出た。

10年には県全体で誘致活動を図ろうと「新・鳴滝塾」が発足し、合同説明会や見学会への旅費補助などを実施、病院間で連携プログラムを作ってアピールしてきた。(小出久)

長崎大医学部の定員を2人増へ

17年度に文科省

文科科学省は20日、長崎大と私立大4校が2017年度に医学部入学定員を計18人増やす計画を公表した。これとは別に、海外での医療協力に貢献する人材育成を目指すとして、国家战略特区に指定された千葉県成田市で、国際医療福祉大の医学部新設(定員140人)が認められており、17年度の総定員は9420人になる見込み。

文科省は地域の医師不足解消のため、19年度まで医学部の一定の定員増を認める方針。私立大4校が申請した計16人分は、松野博一文科相が20日、大学設置・学校法人審議会に諮問した。長崎大の2人分についても意見を求める。

県内の病院別マッチング結果(20日現在)

病院名	定員	マッチ者数
長崎みなとメディカルセンター市民病院	12	5
長崎原爆病院	5	1
長崎大学病院	70	67
佐世保市総合医療センター	14	10
佐世保中央病院	4	1
国立病院機構長崎医療センター	23	23
県島原病院	3	1
諫早総合病院	5	3
県五島中央病院	3	0
済生会長崎病院	4	3
佐世保共済病院	2	0
市立大村市民病院	2	0
県上五島病院	3	1
長崎労災病院	3	2
上戸町病院	4	1
計	157	118

※厚生労働省発表資料に基づき作成